

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

1 No.3 センターが行う実態調査によって、担当圏域の現状やニーズを把握しているか

【調査内容と把握した現状やニーズについて記載】

資料1-3	令和7年度 第3回 佐倉市高齢者福祉・ 介護計画推進懇話会 (令和7年12月18日)
-------	---

志津北部	<p>担当圏域の民生委員にアンケートを実施。地域の課題、地域に必要な社会資源等を調査した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域の課題として挙げられるのは、群を抜いて「独居」が最多。どの地域にも、一人暮らしの見守りが必要となっている。また、通院について、タクシーがつかまらない等移動手段が課題として挙げられた。 ■地域の方に参加を勧めているものとして最も多かったのは、社協が開催している地域の集いの場(100円喫茶、いきいきサロン)。次にわくわく体操会、高齢者クラブが主催する通いの場であった。他にボランティア活動も挙げられている。民生委員として、高齢者の孤立化を防ぎ、社会的繋がりを保つ、及び身体・生活機能の維持を視点にしていることが伺える。 ■地域に必要なものとして、バス等の移動手段、簡単に頼み事ができる依頼先(公的サービスではカバーしにくい”小さな困りごと”)に対応できる社会資源)が望まれている。
志津南部	<ul style="list-style-type: none"> ■圏域のケアマネジャー事業所との交流会開催時、交流会開催内容についての意見と合わせて地域の社会資源や利用者の方の困っている地域の課題について、アンケート実施。(12月は、5事業所。2月は6事業所対象)結果、通院や交流の場への移動手段、ゴミ出し、服薬管理の順で多かった。 ■2月に地域住民、民生委員、自治会、有償サービスの方60名に地域の困りごとや不便と感じていること等についてアンケートを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・上志津地区: 担い手不足、通院等移動サービス、買い物の順で多かった。 ・西志津地区: 担い手不足、多世代交流の場、防災面が心配の順で多かった。 ・中志津地区: 担い手不足、郵便局や銀行まで遠い、通院等移動サービスの順で多かった。 ・下志津地区: 買い物、交通機関が利用しにくい、多世代交流の場の順で多かった。 ・上志津原地区: 話し相手、担い手不足、体操会など介護予防の場の順で多かった。 <p>結果、地域活動の担い手不足を感じている方が数値的にも多いということが把握できた。</p>
臼井・千代田	<ul style="list-style-type: none"> ■民生委員対象の調査…担当地域で困り事がある方が9割。内容は交通、買い物、医療・健康、福祉・介護、人間関係、空き家、担い手不足が多かった。お困りごとの解決方法としては、地域包括センターに相談が一番多く、続いて民生委員同士・自治会長・地区社協・行政となっている。地域包括センターが身近なものになっていることが分かり、今後関係性を維持していくことが重要と思われる。 ■ケアマネジャー対象の調査…医療との連携については、病院とクリニックで連携のやり方が違うこともあり連携シートが十分に活用されていない。また、昨今は様々なツールが出て来ておりどのように活用していくのが課題となっており医療連携の交流会は必須と思われる。精神疾患の利用者も増えており対応に苦慮しているとの相談が多くなっている。障害についても勉強会も検討が必要。支え合いサービスについては興味を持っている方も多く、今後は事例検討会の開催も検討していく。 ■介護予防教室参加者からのアンケート調査…参加者が参加者自身、また地域としての介護予防の重要性を理解していただけた。今年度はまだ介護予防の取り組みがない地区等に焦点を当てて教室を開催すると同時に、まだ高齢化率がそれほど高くない地区や、農村地区での開催を目指し、介護予防に関心を持ち自主的に活動していく団体も増やせるよう地域支援を行っていききたい。
佐倉	<ul style="list-style-type: none"> ■ケアマネジャー対象の調査(R7/1/12) <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが感じている課題として、「BCPに関すること」や「災害時のケアマネジャーの役割について」や「地域との関わり方について」、「社会資源」や「他事業所の動向等の情報について」等の意見が挙がっており、特に多かったのが『認知症・独居の方への支援』について苦慮されている現状を確認している。 ■民生委員向け実態調査(R7/2/18) <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員活動時の困り事について「認知症の人が増えている」、「面識のなかった高齢者との関わり方が難しい」「民生委員活動ができる時間的余裕がない」等記載が見られている。そもそも「悩みを話して貰えない」、「民生委員に心配を掛けたくない」と思われていて、「体調不良でも病院に行こうとしない」、「独居の方や認知症疑いのある方への介入拒否があつて困難」、「家族関係が不明で状況把握が困難」等と言った本人の拒否、遠慮により介入自体が難しく、対応に苦慮されている現状を確認している。
南部	<p>3月に委託居宅介護支援事業所に向けてアンケートを実施。57名に配布し41名回答(回収率72%)</p> <p>内容は担当利用者が抱えている生活課題について、ケアマネジャーの視点でどのように対応しているか調査を行った。</p> <p>課題については、通院、ゴミ出し、服薬管理、買い物の順に多かった。ケアマネジャーとしては地域資源が不足していると感じており、ニーズが解決できているかの問いには47.4%が「いいえ」との答えだった。他の内容としては、業務を行う上で困っていることなどの項目を挙げ、ケアマネジャーの業務負担を調査した。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

2 No.7 市町村の実施方針や担当圏域の地域課題等を踏まえ、センターの事業計画に重点目標を設定しているか

【重点目標を記載】

志津北部	<ul style="list-style-type: none"> ■介護予防…出前講座を開催し、介護予防の周知、虚弱高齢者の発見に努める。また、社協のいきいきサロン、100円喫茶等通いの場に積極的に出向き周知活動に努める。 ・生活支援コーディネーターと連携してわくわく体操会に出向き、会の運営等の助言及び継続のための支援をする。 ・介護予防リーダー交流会を定期的に開催し、情報交換を行う。 ・地域住民のニーズに沿った介護予防教室「としとらん塾」を10回開催。 ・包括新聞を年2回発行し、介護予防の周知に努める。 ■認知症施策…認知症声かけ訓練を実施する。 ・チームオレンジが自主運営できるよう支援する。 ・オレンジカフェでは、当事者が主体的に活動できるよう工夫する。 ■地域ケア会議…介護予防のための個別ケア会議及び地域ケア圏域推進会議を開催、多職種と連携し、地域課題を検討、地域と共に協働して解決に取り組むと共に、市へ対応策を提言する。 ■在宅医療・介護連携推進…顔の見える関係を築くことができるよう参集での事例検討会、意見交換会を実施する。
志津南部	<ul style="list-style-type: none"> ■介護予防…介護予防拠点の見守り継続、新規立ち上げ希望団体に対して支援を実施する。また、介護予防リーダーやわくわく体操会代表者との交流会を実施する。 ■認知症施策…認知症地域支援推進：医療・介護機関をはじめ、企業等との連携強化及び認知症に対する正しい理解をしていただけるよう認知症声掛け訓練や認知症サポーター養成講座の企画開催を行う。また、オレンジカフェ・介護者教室を開催し、認知症の方や家族が暮らしやすい地域を目指す。「チームオレンジ」の活動として、ステップアップ講座の開催に向けて、地域の特性を勘案し企画・立案・実施する。認知症初期集支援チーム：年5件の新規対応を行い、サポート医療機関と月1回会議を実施する。 ■地域ケア会議…高齢者の尊厳ある生活の地域での継続や、自立した日常生活を営むために必要な体制づくりのため、地域ケア個別ケア会議・介護予防のための地域ケア個別会議・地域ケア圏域推進会議を開催、市主催の地域ケア推進会議に参加する。会議により不足の資源について地域資源開発のために協議体の開催及び、地区ごとの地域課題解決に向けた会議、意見交換を行う。
臼井・千代田	<ul style="list-style-type: none"> ■包括的・継続的ケアマネジメント支援業務…在宅医療の関係機関と介護支援専門員合同の事例検討会を開催して顔の見える関係作りができるよう支援し、医療・介護事業所間の連携強化を促す。 ■認知症理解のための普及啓発活動…地域や企業に向けた認知症啓発活動として、認知症サポーター養成講座の開催を行う。 ・チームオレンジの活動の場を確保するために、地域の催しに参加できるように調整を行う。 ・オレンジカフェの新規立ち上げに向けて、地域の協力期間との連携を深める。 ■介護予防普及啓発事業…今年度のとしとらん塾は3コースに分けて実施。 ・1コース目は全4回で3回実施した後3ヶ月後に再度参加者が集合し、フレイルアンケートを実施するとともに予防の取り組みを継続できているかを確認。皆が対面することで今後も継続していく意欲を高められるようにする。 ・2、3コース目は初めて教室を開催する地区と6年ぶりに開催する地区である。1コース目の教室運営と比較し、次年度もこの方法を取り入れるかを検討し事業に活かしていく。
佐倉	<ul style="list-style-type: none"> ■住民主体の互いに気にかけて合う地域づくりの推進 地域共生社会を目指し、ラジオ体操や通いの場、移動販売の場へ積極的に足を運び、身近な地域での見守りの大切さを伝える。 ■地域の支え合いと個別ケースの連携支援 予防のための地域ケア個別会議では、民生委員や専門職が「要支援者が地域で暮らし続ける」ことについて話し合い、生活支援コーディネーターの助言を得ながら平時から気にかけて合うことができる地域づくりにつなげる。 ■在宅医療介護の連携推進 医療と介護等の専門職が参集し、顔の見える関係づくりを目的とした情報交換会『さきいか勉強会』を開催。地域住民向けの在宅医療介護に関する出前講座を開催する。 ■専門職が積極的に地域へ出向けるように支援 個別会議や圏域推進会議に参加された理学療法士、薬剤師、栄養士などの専門職がオレンジカフェ等に参加し、参加者の個別相談等の支援を行う機会づくりを行う。
南部	<ul style="list-style-type: none"> ■地域ケア会議…多職種との連携を行いながら、個別課題から地域課題を考え、地域住民と共に対策を検討。自立支援・介護予防に着目した検討会議を実施し、住民主体で地域を考えることができるよう意見交換を行う。 ■認知症施策の地域推進…見守りや定期的な状況確認が必要な方を中心に認知症カフェの参加を促し、認知症カフェを活用した見守り体制づくりの強化 ・認知症サポーター養成講座「チームオレンジ」と共に実施する。 ・認知症声掛け訓練の推進 ■在宅医療・介護連携推進事業…佐倉南部地域在宅医療介護連携会議「さきいか」において、医療と介護が連携する上での課題の抽出と対応策について専門職が定期的に協議し、研修会を行う。 ■介護予防…生活支援コーディネーターと連携し、地域の通いの場やわくわく体操会の継続支援を行う。 ・出前講座を開催し、介護予防の周知啓発、気になる高齢者の把握を図る。

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

3 No.14 センターの人材確保や定着を進めるための取組を行っているか

【取組内容について記載】

志津北部	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の希望に沿ったシフトを作成し、有給休暇の取得を推進している。職員一人に業務が偏らないよう担当事業を分担している。ケースワークは内容を全員で共有、困難ケースの場合はバックアップ体制を整えている。 ・専門性向上のため、希望する研修は受講できるようにしている。メンタルサポートの窓口を整備している。 ・城西大学看護学生の実習受入。(R7.2.12~2.13) ・東京情報大学看護学生の実習受入。(R7.2.10)
志津南部	<ul style="list-style-type: none"> ・城西大学看護学生の実習受け入れ実施(6/18、6/19) ・東京情報大学看護学生の実習受け入れ実施(9/4、9/10) ・年2回(5月、11月)の他、必要時に管理者との個別面談を実施し、専門職としての自己評価を目標を定めている。 ・毎月の勤務形態については、個々の希望に沿って休暇が取れるように配慮している。
臼井・千代田	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月単位の変形労働時間制(1週平均40時間)を採用しており、残業分は他の日に振り替えて休暇を取るなどしている。 ・研修費用や資格取得のための補助金を出しており、研修は申請により業務時間とみなして受講機会を増やすようにしている。 ・市より依頼のあった看護学生の実習を受け入れている。 ・年1回は理事長または本部職員と上司との面談の機会を設けて職場環境の改善を図っている。
佐倉	<ul style="list-style-type: none"> ・城西国際大学看護学部学生の実習受け入れ(R7/2/12~2/13) ・東京情報大学看護学部学生の実習受け入れ(R7/2/18) ・1か月の変形労働時間を採用、直行直帰やリモートワークの活用により、働き方に柔軟性を持たせている。 ・健康相談窓口を設置。年に一度の健康診断やストレスチェックを実施し、従業員の健康維持を支援。 ・子育て支援では法人で運営する保育園も利用可能。 ・研修制度を充実、ウェブを活用した自己学習により、スキルアップが図れる。資格取得制度があり。
南部	<p>法人の研修として、人材育成トレーニングの研修を経験年数に応じた内容を取り入れている。メンタルヘルスについては年1回研修を設けている。上司との面談は少なくとも半年に1回、年2回は行っている。他にも必要があれば適宜面談を設けている。</p> <p>資格取得について、業務に関係する資格であれば全額法人支給し、研修扱いで受講機会を保障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城西国際大学看護学部学生の実習受け入れ 2名各2日間(12/17、12/18、2/18、2/19) ・東京情報大の看護学部学生の実習受け入れ 2名各1日間(2/13、2/20)

4 No.25 相談事例の分類方法に沿って、1年間の相談件数等を市町村に報告しているか

【相談内容の傾向について記載】

志津北部	<p>R6年度の新規相談件数としては、1,672件(前年度比+71件)。</p> <p>相談者の内訳は、46%が家族・親族、本人からの相談が19%、ケアマネジャーからの相談が9%、関係機関からの相談が7%となっており、ほぼR5年度と同様。相談内容としては、82%が介護・福祉サービス、20%が独居高齢者、14%が認知証に関するものであった。</p> <p>エリア別では、井野・井野町エリアの新規相談が478件と前年度比43件減であったのに対し、上座エリアが353件(前年度比71件増)、ユーカリが丘エリア424件(前年度比52件増)と増加、特にユーカリが丘の内4丁目のマンション群で150件(48件増)と増加傾向が認められた。</p> <p>内容としては介護・福祉サービス、中でもデイサービス関係の相談が上座で16件増、ユーカリが丘で21件増と増加している。</p>
------	---

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

志津南部	<p>毎月相談件数を市に報告書で提出している。</p> <p>■令和6年度全体の件数・相談の実件数は1,113件。相談者別の内訳としては家族からの相談が606件（54%）で最多となっている。</p> <p>■相談内容の傾向・相談内容としては介護・福祉サービスが744件で延べ件数1,756件のうち42%であった。安否確認が必要なケースは132件で7.5%となっている。なお虐待ケースは疑いも含めると10件と去年の倍以上に増えている。</p> <p>■地域特性・地域の特性として、高齢化率等の高さから中志津地区からの相談件数が若干多く、次に上志津、西志津と続いている。・上志津324件(29%)・中志津 352件(32%)・西志津 255件(23%)・その他の地域182件(16%)</p> <p>①中志津地区…地区全体の認知症相談件数のうち30%以上を占めている。高齢化率が40%ととても高く、それに伴って独居や高齢夫婦世帯も増えていることが原因だと考えられる。</p> <p>②西志津地区…安否確認・状況確認が地区全体の50%を占めている。高齢化率の伸びがとても高く、ここ10年で急激に増加している。それに伴って関係機関や地域住民からの問い合わせが増えている現状がある。</p> <p>③上志津…医療機関からの連携ケースが増えている。駅から近い地域で病院も多く、受診がしやすい環境だと考えられる。医療機関とも繋がりがやすい。</p>
臼井・千代田	<p>■令和6年度の新規相談件数は年間で1598件（令和5年度は年間1568件）昨年度と比べてほぼ横ばい。</p> <p>■相談者の内訳…家族・親族が48%、本人18%、医療機関9%、ケアマネジャー9%、近隣知人3%、民生委員3%、行政3% その他介護事業所・見守り事業所など</p> <p>■相談内容の傾向…介護に関する相談が多く、認知症に関しては医療や後見人制度や消費者被害の相談が増えている。件数は多くはないが介護負担による家族離職の相談もある。</p> <p>■地域特性…臼井地区高齢化率 36.5%→36.4%、千代田地区高齢化率 32.9%→34.1%</p> <p>①王子台地区…高齢率はほぼ横ばい。住宅地ではあるがアパートも多く健在しており高齢化率は横ばいが続いている。その一方で独居の方の相談が増えている。主に介護サービスに関する相談。次いで生活支援の相談が多い。支え合いサービス利用者も増えているが担い手不足が懸念されている。</p> <p>②うすい地区・うすい東地区…高齢化率は横ばい。高齢者数は増えているが住み替えにて若い世代の入居が進んでいることが原因と思われる。介護サービスに関する相談が多い。以前より居住している方たちの繋がりがあり、お互いに気に掛け合う関係性ができている。</p> <p>③千代田地区…在来地区は地区内の助け合いの関係ができており相談数は比較的少ない。</p> <p>生谷地区の相談は横ばい。介護サービスの相談が多いが、地区の繋がりが強く近隣からの相談が入ることがある。染井野地区の相談は増加傾向。主に介護サービスの相談だが、医療・認知症に関する相談が多い。</p>
佐倉	<p>■令和6年度の新規の年間相談件数は1039件。（令和5年度は年間905件）、昨年と比べて134件増。R6年度は本人、家族からの相談が全体の約7割だった。</p> <p>■相談内容の傾向…前年度に比べて『介護福祉』や『認知症』、『生活支援』に関する相談が増えている。また『介護予防』に関する相談も微増となってきている。</p> <p>■地域特性…佐倉地区の全体の高齢化率は37.6%（前年度37.5%）と微増。地区社協区毎で見ると城の辺地区は36.7%（前年度36.3%）、佐倉東部地区は37.7%（前年度37.4%）と微増であるが、内郷地区38.8%（前年度39.2%）と減少している。令和6年度の相談内容としては、『城の辺地区』の相談件数は238件（前年度189件）と増加しており、認知症に関する相談やデイサービスの利用についての相談、権利擁護に関する相談、今後への不安など多岐に渡って相談件数が増えている。『佐倉東部地区』の相談件数は522件（前年度421件）と増加。認知症や健康不安に関する相談が増えており、介護保険の申請も増えている。『内郷地区』の相談件数は、195件（前年度221件）と減少、医療機関との連携が必要な相談が増えている。</p>
南部	<p>■全体の件数…相談件数は年間761件（昨年比19件増）</p> <p>延べ件数は3311件で昨年よりも560件多かった。継続して対応するケースが増えていることが分かる。</p> <p>■相談内容の傾向…相談者の内訳は家族、親族から52.3%、本人から14.5%、次いで病院等関係機関から11.7%であった。前年に比べると関係機関からの相談が53→89件、近隣住民・知人が17→28件と増加。顕著だったのは、見守り協力事業者からの相談が4→11件に増加した。相談内容に分類しての相談件数は1254件。介護福祉サービスに関する相談は504件と相談の40%を占める。独居や認知症の相談は多く、独居173件、認知症130件であった。さらに病院との関係機関調整が87件であり、前年と比べて24件増である。独居や高齢者世帯、認知症などにより、介護者不在、介護者も支援が必要であるケースが増え、病院との連携事例が増えている。</p> <p>■地域の特性…各地区の高齢化率は、根郷地区30.7%、和田地区42.2%、弥富地区45.8%であり。昨年度とほぼ変わらない。</p> <p>相談件数としては、根郷地区は618件。高齢化のスピードが著しい地区もあり、特に山王2丁目43.8%、大崎台5丁目49.1%、藤治台51.6%が目立つ。根郷地区全体として独居・高齢者世帯の相談も多く、317件(42%)であった。近隣や民生委員からの相談も増えているが、自分からは訴えができず課題が深刻化している相談も多い。民生委員や地区社協の支えあいサービスとの連携が欠かせない。</p> <p>和田・弥富地区は世帯数も少なく、相談は88件。地域の方や家族の支援を受けながら生活している方が多く、病院等で包括を紹介されて繋がることが多い。</p>

5 No.27 相談事例の解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村から後方支援を得ているか

【支援を要請した具体的な事例や連携した課などを記載】

志津北部	<p>①独居の統合失調症男性。高齢の姉、兄が週1回ずつ訪問し買い物等支援。下半身裸で1階部分の室内中に排便排尿。兄が癌を患い、姉から相談を受け、障害福祉課と連携、受診勧奨した。</p> <p>②難病の女性と同居の統合失調症の息子。息子が強くサービス利用を拒否。高齢者福祉課、障害福祉課と連携。施設入所。</p> <p>③精神疾患及び認知症の男性。保健所、高齢者福祉課と連携。民間救急にて精神科病院に医療保護入院。</p> <p>④水道料金の支払いが滞り、止められてしまう状況。水道課に協力を求め、高齢者福祉課と同行訪問。料金引き落とし手続きを取る。</p>
志津南部	<p>①家族関係が複雑で多方面からの支援が必要なケースに対して、社会福祉課、障害福祉課、子ども家庭課、高齢者福祉課、民生委員、社会福祉協議会と連携し、支援を継続している。</p> <p>②家族が精神疾患があり、本人の年金に頼っており、経済的困窮となっているケース。障害福祉課、相談支援事業所ぎりぎり、暮らしサポートセンター、担当介護支援専門員と連携している。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

臼井・千代田	①夫が逝去して理解力のない妻と精神疾患を抱えた息子との二人暮らしで住宅ローンの払えなくなったケースを支援。高齢者福祉課・社会福祉課・障害福祉課・くらしサポートセンター・くらせるに協力を依頼して連携をしながら対応した。社協の法律相談にも繋げてもらい支援方針を検討して対応にあたった。 ②独居高齢者で親族と連絡が取れないケースの場合は速やかに高齢者福祉課や社会福祉課に相談をして後方支援をしてもらっている。 ③高齢の父親と精神障害のある娘と精神・知的障害のある孫の家庭では、障害福祉課・こども支援課・居宅介護支援事業所と日頃から協力体制を作り情報共有を図りながら支援をしている。
佐倉	①家族にもそれぞれ認知症や障害、生活困窮などの課題あり。本人の退院の話が挙がるも、適切な介護が受けられない可能性が高いため、関係者間で話し合っている。担当ケアマネジャーやくらしサポートセンター、かけはし、高齢者福祉課に地域ケア個別会議に参加の依頼を行い、支援方法について検討している。市からの後方支援として、高齢者福祉課と障害者福祉課が連携を図り、ご家族へ支援も入っている。 ②独居の方で徐々に動けなくなり、部屋も散らかっており、火災リスクも高いが支援に拒否あり。大家さんも困っていたため、大家、補助人、担当ケアマネジャー、ヘルパー事業所、薬剤師、高齢者福祉課に地域ケア個別会議への参加依頼を行い関係者間で今後の支援について話し合っている。市と補助人等が連携を図りながら支援に当たっている。
南部	①独居の認知症高齢者世帯。夫を亡くしたばかりで不安が強く、生活状況の把握も難しい。市へ頻回に連絡あり。息子との連絡調整、施設入所の相談で高齢者福祉課と連携。 ②認知症高齢者と未婚の息子の世帯。日中独居で徘徊頻回。デイ利用しているが対応に苦慮。関係機関とケア会議行う。高齢者福祉課、民生委員、サービス事業所、担当ケアマネと連携。 ③精神疾患のある両親と知的障害の息子の世帯。虐待の継続ケース。息子が一時的に入院したが、病院との連携がうまくいかず退院。高齢者福祉課、障害者福祉課、アシストと情報共有し連携。 ④独居で身寄りなし。火事で自宅は全焼。入院中に病院との連携や保険会社への連絡、通帳の再発行等が必要となる。本人の理解力の低下、被害妄想もあり高齢者福祉課と情報共有し対応した。

6 No.31 家族介護者に対するアセスメントを行い、状態やニーズに応じて適切な社会資源に関する情報を提供しているか

【家族介護者へ情報提供している内容や例を記載】

志津北部	・交流の場として、オレンジカフェ、介護者教室、としとらん塾、わくわく体操会、ラジオ体操、社協のいきいきサロン、社協やシルバー人材センターの日常生活支援。相談窓口として社協（くらしサポ）、ぼーれぼーれ家族の会。
志津南部	・夫が認知症で通院しており、処方された薬を妻が取りに行ったが妻自身に理解力がないことで心配があるとの相談があり介入したところ、もの忘れが目立っていることでアセスメントを行い、家族（子ども）に薬局、医療機関、地域の地区社協や民生委員の情報提供を行い、本人（妻）の地域活動の参加が続けられるよう繋げる支援を行った。
臼井・千代田	・認知症が疑われるケースについては、市開催の物忘れ相談や物忘れ外来等の情報を提供して必要に応じて連携を取っている。 ・包括主催の介護者教室への案内・法人主催の介護者のつどいの案内・認知症家族の会の案内をしている。 ・若年性認知症については、県の若年性認知症支援コーディネーターに繋ぎ、本人・家族ともに支援が受けられるようにしている。 ・ご家族より生活困窮の相談があった場合は、社協のくらしサポートセンターと連携を取り支援をしている。
佐倉	・ご家族が申請するにあたって、マイナ保険証についての相談もあり、手続き方法や情報提供を行っている。 ・介護状況を踏まえ、ご家族様の介護負担を感じ、「家族介護者のつどい」への参加を促している。
南部	・認知症の対応について相談があった場合、医療機関の情報提供や場合によってはGPS、SOSステッカーなどの紹介を行った。 ・遠方の家族からの相談も増えているため、緊急通報サービスや配食サービス（民間も含めて）、地域のささえあいサービス等高齢者の地域資源を情報提供している。

7 No.34 相談者とともに複合的課題を整理してニーズを明確にしているか

【どのような家庭が多いか、どのような形で支援しているか記載】

志津北部	最も多かったのは、家族に障害があるケースであり、次いで生活困窮の課題となっている。対応としては、包括職員が訪問して状況確認し、くらしサポやケアマネージャー等の関係機関、及び配食サービス等の社会資源につなげている。
志津南部	50歳代の家族が父、母の介護を行っているケースや自身・家族に障害があるケース・金銭面で困っている家庭からの相談があった。金銭面では介護サービス費、入院費、食費が払えない家庭もあった。包括として担当ケアマネジャー、市役所、社会福祉協議会、障害者支援機関と情報共有を行い、介護申請や同行訪問、見守りを行った。具体的には金銭面で食べ物に困っている方を生保の申請に繋げたり、フードバンクの配布を行った。また障害のあるご家族に対して介護申請を促し、ケアマネジャーを調整することもあった。
臼井・千代田	8050(9060)世帯では、何らかの理由で子世代が働けなくなり親の年金だけで生活していることが多く、生活困窮に至ってから、または介護負担増大により子世代が困ってから相談が入ることが多い。また、家族に障害があるケースも多く高齢者福祉課・障害福祉課・社会福祉課・くらしサポートセンターと連携を取りながら支援をしている。近年は精神疾患を抱える家族の相談ケースも増えており、医療との連携も必要となっている。

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

佐倉	最も多かったのが『家族に障害者がいる世帯』『8050問題』ケースであった。介入時は「親の介護について」の相談から入っているが、適切に判断できる家族が居ないこともあって、高齢者福祉課や障害者福祉課、社会福祉協議会、くらしサポートセンター、くらす、かけはし、アシスト、必要時には医療機関等、他職種連携で役割を作ってご家族も含めた支援になることもある。
南部	・家族に障害がある世帯からの相談は多く、8050問題に発展していることもある。家族から介護についての相談を受けている経過の中で、障害のある方が同居されていたり、関係機関である相談支援事業所アシストから相談を受けることが多い。 ・包括だけではなく、相談支援事業所やくらしサポートセンター等関係する機関と連携し対応している。

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

8 No.38 総合相談支援事業を行うにあたり、負担を感じることにについて3つまで回答してください。

【負担となっている主な内容について記載】

志津北部	<p>■14.地域ケア会議の開催 ①民生委員不在の地域が多く開催に向けての地域住民への協力要請が難しい。・自治会長の任期が1年のため協力を得ることが困難。・参集開催での自治会会議が減少、若しくは無い状況のため協力を得る機会を持つ事が難しい。②日程調整、資料作成、会場手配、参加者連絡などの事務作業が多く、時間的負担が大きい。③限られた職員数で通常業務と並行して対応するため人的負担がある。④医療・介護・福祉・行政など多職種間での日程調整等に時間と労力を要する。</p> <p>■15.社会資源の開発 ①日常業務に加え、新規活動の企画や調整に多くの時間と労力を要する。②ボランティアなど関係者と住民との多様な立場の意見を調整する必要がある。</p> <p>■17.個々の相談記録の作成 ①データ集計システムに自由度が無く、データ分析が困難。②相談対応後すぐに記録をまとめる時間を確保するのが難しいことがある。また、他業務との並行で残業につながることもある。③相談内容・経過・対応方針を漏れなく正確に記載する必要があり、集中力を要する。④外出先では入力に難しく、後追い作業が増える。</p>
志津南部	<p>■6.利用者の意思決定支援 家族からの相談が多いため、家族の意向が優先されてしまう傾向にある。本人に認知症や精神疾患がある場合、特に意思決定支援が難しくなるケースが散見される。・ケースにより本人が何を求めているのかを把握する過程での支援が難しい。・明らかに施設への入所や入院が必要な方でも認知症や精神疾患などの影響もあり、本人の病識がなく理解を得ることが難しい場合に時間を要している。</p> <p>■7.利用者や家族等からの連絡や要望への対応 認知症や精神疾患のある利用者やご家族からの連絡が頻回となり、他の業務に取り組む時間が削られることがある。</p> <p>■11.関係機関や専門職との連携 連携が必要となる関係機関との立場の違いがあることで支援の方向性が定まらず対応が遅れないように対応すること。・個々の相談により、関係機関や専門職と適切な連絡先の選定ができるように、情報収集や関係づくりの体制を整えておくことで負担に繋がっていると感じている。</p>
臼井・千代田	<p>■4.利用者家族との関係構築 初回相談の際には家族のみで来所の場合も多く最初に家族の意向を伺うことになる。本人の意向を確認するために訪問すると、家族の意向と本人の意向がずれていることも多く家族間の調整が必要となり手間が掛かる。</p> <p>■6.利用者の意思決定支援 ご本人の気持ちが揺れ動くこともあり決定までに時間を要する。また、認知症の方は特に意思表示ができない場合もあるができるだけ本人の意思を汲み取るためにアセスメントに時間を要する。</p> <p>■14.地域ケア会議の開催 個別のケア会議を開催する際には関係機関の日程調整に時間を要する。会議後は報告書類など作成など手間が掛かる。 介護予防のための個別ケア会議は書類作成やケアマネジャーとの打ち合わせの時間の調整等に時間を要することが負担になっている。</p>
佐倉	<p>■3.利用者との関係構築 近隣や別居中のご家族からの相談で認知症の疑いがある、自宅訪問することがあるが、自身からは困っていない等の発言があつて、介入前から拒否されることもある。</p> <p>■4.利用者家族との関係構築 近年、ご家族に精神疾患等の障害をもつ家庭が増えてきており、ご家族間の関係性が悪かったり、家族自身の想いや拘りが強すぎるため、当事者との関係が悪かったりすると、当事者に対して適切な支援に繋がらず、時間を要することが多いので負担感が大きい。</p> <p>■6.利用者の意思決定支援 「高齢者ドライバー問題」などを例に挙げると本人の認知機能が低下の疑いが見られるものの、独居生活で近隣に買い物先がないことや自身は未だ車に乗れているという自負などがあつて、免許返納を拒否、認知症の検査以前に包括からの介入自体を拒否されることもあつて、家族共々苦慮している。また本人の判断能力の有無を判断するためのプロセスに時間を要する。</p>
南部	<p>■6.利用者の意思決定支援 本人の思いを傾聴しながら対応しているが、本人の意向に沿って進めるとリスクが伴うこともあるため、家族や関係者の思いも確認しながら進めているが調整が難しい。</p> <p>■7.利用者や家族等からの連絡や要望への対応 利用者や家族から「介護保険を利用したい」との要望を相談されても、ケアマネの調整が難航し、待つていただくことも多い。また、介護保険の理解が不十分な場合もあり、本当にサービスを必要としている状態なのか確認した上で、丁寧に説明する必要があり苦慮する場合もある。</p> <p>■14.地域ケア会議の開催 事例提供や助言者への依頼、書類の準備等、開催までにも時間を要している。また、会議を開催する主旨を事例提供者や助言者に毎回説明する必要があり苦慮している。開催前、開催後、全体的に提出する書類が多い。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

9 No.43 消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、適切に対応しているか

【消費生活センターや警察等との連携内容について記載】

志津北部	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者からの訪問販売、電話勧誘、悪質リフォーム等の相談を受付。 ・契約状況や被害の有無を確認し、必要に応じて家族等へ情報共有して拡大防止を図っている。 ・消費生活センターへ情報提供し、専門的な助言、対応につなげている。 ・体制整備：①緊急性、悪質性が高い場合には警察へ通報する。②対応内容は記録し、必要に応じてケース検討会で情報共有する。 ・啓発活動(チラシ配布・集いの場や地域ケア会議等での情報交換)を実施し、予防に努めている。
志津南部	裏の家で外壁塗装工事をしている業者から、「屋根が浮いているので釘を1本だけ無料で打たせてください」と言ってきた。消費生活センターに電話。悪徳業者が良く使う手なので屋根に上がらせないようにとの助言あり。その後も連携を図っている。
臼井・千代田	消費者被害の相談があったときには、消費生活センターに対応について相談をしている。同時に市に報告をして近くの派出所にも報告をして注意を促してもらうようにしている。
佐倉	消費者被害の相談があった際は消費生活センターに連絡し、対応を依頼している。また、消費生活センターからも相談者の中に認知症の疑いのある方がいた場合には包括支援センターへ繋いでいただくなどの連携が取れている。R6/5/14には消費生活センター職員に講師を依頼して『介護者教室』を開催し、消費者被害の予防啓発を行いつつ、体制整備にも努めている。
南部	消費者被害に関する相談や情報があった場合は、消費生活センターや警察と情報共有・連携し、対応方法を検討している。現在、個別ケースにおいて、消費生活センター、銀行、警察と連携を取っている事例あり。消費者被害について相談があった際には消費生活センターと情報共有し、対応方法を検討している。6/21介護者教室にて講師依頼をし、市内で相談が増えているインターネットのトラブルや訪問販売、クーリングオフ等について情報共有を行った。

10 No.44 高齢者虐待事例および高齢者虐待が疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか

【高齢者虐待の防止や早期発見のための住民への啓発活動について記載】

志津北部	・高齢者虐待が疑われる具体的事例と相談窓口(包括支援センター)の連絡先が記載されたリーフレットを作成し、訪問時等に配布している。また、集いの場において、包括支援センターが相談できる場であること等の周知活動を行っている。
志津南部	・市とセンターで作成したマニュアルを参照して対応。相談が入ったら、速やかにセンター内で対応方針について検討、関係機関へ事実確認しながら、市とも協議。速やかに(48時間以内)に安否確認を実施している。訪問時には、必ず複数名で対応するようにしている。 ・住民への啓発活動について、年間(10回)地域のわくわく体操会等において、虐待の防止と早期発見の必要性について啓発(お話)を行っている。民児協、上志津わくわく体操、上志津ローズカフェ、さくらの会、志津南地区森の茶屋、下志津自治会役員会等で実施。また企業ではスーパーに出向き、事例紹介やチラシ配布などの啓発を行った。志津南地区社協の12/8理事会において事例紹介やチラシ配布などの啓発を行った。
臼井・千代田	・6/15臼井地区自治会連合会、6/29臼井地区社協福祉委員会にて包括センターの紹介と併せ高齢者虐待の講話を行った。染井野自治会連合会では包括センターの紹介の際に高齢者虐待防止について講和を行い周知活動を行った。民児協では事例検討の際に高齢者虐待の防止・早期発見について事例紹介するなどの周知を行った。
佐倉	・R6/11/17には社協ヘルパー事業所に対して虐待防止に関する出前講座を実施、R6/11/20にはケアマネジャー向けの虐待防止に関する出前講座を行って。また、民児協の出席時には住民向け、民生委員向けに虐待防止の協力要請を行っている。地域のサロンに参加した際には、虐待の早期発見のための周知活動も適宜行っている。
南部	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の通いの場等に高齢者の見守りについてチラシを配布し、早期発見につながるよう周知啓発している。 ・8/8民生児童委員の勉強会において、包括の役割と共に高齢者虐待の防止、早期発見について周知を行った。 ・9/26 介護者教室にて、地域住民向けに認知症の方の権利擁護の観点から、成年後見制度について説明を行った。

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

11 No.49 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類・件数を把握した上で、研修会、事例検討会、地域ケア会議等を開催しているか

【具体的な事例について記載】

志津北部	<p>■R年6年度中に「ケアマネジャーおしゃべりカフェ」を6回計画し5回実施した。1回は他の研修と重複したため中止とした。(R6.4/23、6/18、9/17、11/19、R7.1/21、3/18(中止))</p> <p>■地域ケア個別会議: R6.8/14 障がいのある長男と2人暮らしの女性。介護サービス導入にあたり、長男の意向(契約拒否、サービス担当者が男性だと受け入れない等)があり、ケアマネジャー、包括支援センターもなかなか苦慮した。本人、長男を地域で見守りをしていく為、関わっている皆で情報共有をし、現状・課題を共有するためにケア会議を行うこととした。</p> <p>■民生委員との意見交換会: R6.6/15 志津南部地域民生委員との意見交換会、R7.3/12 志津北部地域民生委員との意見交換会</p>
志津南部	<p>■「ケアマネ相談対応履歴」を作成し、相談経緯、相談内容、対応について分類・管理している。分類:①ケアプラン作成②担当者会議③支援困難 ④制度理解⑤その他 としている。</p> <p>令和6年度においては年間71件の相談があり、相談内容により、電話対応、面談、同行訪問にて対応をしている。</p> <p>■地域ケア個別会議: 9/17 夫が逝去されたことで、経済的問題、本人の状況、息子二人の引きこもりとなっていることで、支援の方向性と関係者の役割の共有のためくらしサポートセンターや近隣住民参加地域ケア個別会議を開催。</p> <p>11/23 担当ケアマネジャーより相談あり、認知症の方について、息子さんの認識がないことで、本人の状況の理解をしていただくこと、支援体制を整えるためにサービス事業所にも参加で地域ケア個別ケア会議を開催。</p> <p>2/10 担当ケアマネジャーより相談あり、認知症のある一人暮らしの方の金銭管理、成年後見制度利用を見据えて、関係機関で情報共有と今後の支援についての役割を確認のため個別ケア会議を開催。</p> <p>■介護予防のための地域ケア個別会議: 6/11①ご本人の希望である他者との交流を増やすこと、旅行や競馬等に行くことを叶えるにはどうしたら良いか(参加6名)②地域のコミュニティへのジョイント方法や課題を共有する(参加6名)</p> <p>7/11①老々介護になっている利用者の支援の仕方(参加6名)②健康を崩した時も早期に地域で発見できる体制を構築し、体調回復に時には自立した生活ができる支援の方法について(参加6名)</p> <p>9/19①閉じこもりを防止し外出ができるようになるには(参加6名)②楽しみを持ちながら生活ができるようになる支援を検討(参加6名)</p> <p>10/24①通院を継続したい人への支援方法(参加6名)②独居生活を生きがいをもって生活していくには(参加6名)</p> <p>■6/20医療連携事例検討会(病状を悪化せず、自宅での生活を長く続けていくための支援(参加13名)、11/14他制度に関する事例検討会(早期に呼吸障害が現れたALS患者へのケアマネジメント)(参加13名)</p> <p>■研修会: 7/10 さくらケアマネ協議会との合同研修会を開催「ケアマネが知っていると便利! 司法書士の世界 法律知識研修」参加全体42名</p>
臼井・千代田	<p>■地域ケア個別会議: ①身寄りのない独居高齢者が金銭的な問題から在宅でガン末期を過ごすための支援について②認知症高齢者と障害のある子の世帯の支援について③認知症の進行があるが金銭的な問題で施設入所ができない高齢者の今後の支援について</p> <p>■介護予防のための地域ケア個別会議: 5/15(参加者10名) ①住み慣れた家に住み続けるために移動に繋がる資源がないか。②いきいきと生活するためにどのような支援をすると良いか。</p> <p>6/19(参加者7名) ①自分らしく生きがいを持って生活していくには。②本人が外出しやすくなる方法は?</p> <p>10/16(参加者7名) ①病状が悪化して外出できなくなったときに不便なく地域で生活するには。②坂が多く移動が困難な状況の中で地域との関わりを持ちながら一人暮らしを続けるには。</p> <p>11/20(参加者11名) ①地域交流、趣味活動参加のための外出手段について。②今の生活を続けるためにどのような支援が必要か。</p> <p>■事例検討会: 4/17 独居で認知症進行のため家族が疲弊しているケース (5包括共催 医療・介護連携のため多職種で開催)</p> <p>■研修会: 4/17 多職種連携のための事例検討会(認知症が進行して家族の介護負担が増大して疲弊しているケース)、7/16 成年後見制度について、9/11 訪問診療について、1/15 支え合いサービスとの交流会</p>
佐倉	<p>・ケアマネジャー相談については、受付票を作成し毎月集計している。分類:①ケアプラン作成、②担当者会議開催の開催、③困難事例への助言、④制度の確認等、⑤その他 で整理している。</p> <p>■地域ケア個別会議の開催: ①ケアマネジャーより相談あり。障害のある子と同居している当事者が余命宣告を受けたことから、身辺整理も含めて今後の支援について話し合う為に、R6/6/21に地域ケア個別会議を開催している。</p> <p>②ケアマネジャーより相談あり、「身寄りのない方の死後事務問題」を抱えたケースに対して関係者間で集まって、R6/7/16に地域ケア個別会議を開催している。</p> <p>③ケアマネジャーより相談あり、家族それぞれに課題のあるケースだった為、R6/12/19に地域ケア会議を開催し関係者間で情報共有し、それぞれの課題を明確化し、今後の方向性を検討している。</p> <p>■研修会・交流会: R6年6月にケアマネジャーより、カスハラについての相談を受けており、R6/9/11のケアマネサロンでは、「カスハラ研修」などをケアマネジャー向けに開催している。</p>
南部	<p>ケアマネジャーの相談について受付票を作成し毎月集計している。項目としては①プラン作成②担当者会議開催の開催の支援③困難事例への助言④制度の確認 に分けて整理している。</p> <p>■地域ケア個別会議: 5/21 認知症の利用者と家族が同居する世帯の支援について 参加者8名</p> <p>■介護予防のための地域ケア個別会議: 5/15 ①自宅での役割を継続して行うための支援 6名。②地域での活動ややりがいを引き続き継続するための視点 7名。</p> <p>・7/17 ①高齢者の活動、参加について考える 7名。②適切な活動、リスク設定を受け入れてもらう方法を考える 7名。</p> <p>・9/18 ①田舎で車返納後も自分らしく生活するには 7名。②知的障害のある高齢者に対して本人の強みを生かし在宅生活を続ける支援 7名。</p> <p>■研修会・交流会: 6/12 南部エリアのつどいにて「サービス事業所との連携」「ケアマネジメントについての情報交換」を行う 11名</p> <p>・6/18 佐倉包括との合同勉強会「家族の支援が必要な事例について」の事例検討を開催。参加者18名</p> <p>・7/10 さくらケアマネ協議会との合同研修会を実施「ケアマネが知っていると便利! 司法書士の世界 法律知識研修」を開催 25名</p> <p>・10/7 南部エリアのつどいでCM対象に「独居でCMの対応が苦慮しているケース」「精神疾患、虐待のケース」について検討 10名</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

12 No.50 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者（例：医療機関や地域における様々な社会資源など）との意見交換の場を設けているか

【意見交換した機関や関係者等について記載】

志津北部	<ul style="list-style-type: none"> ・R6.4/17 医療・介護連携事例検討会。 ・R6.6/15 ケアマネジャーと民生委員（志津南部地域）意見交換会。 ・R7.3/15 ケアマネジャーと民生委員（志津北部地域）意見交換会。 ・R7.3/18 カスタマーハラスメント勉強会。
志津南部	<p>■事例検討会（医療介護連携）①志津南部包括主催で開催 6/20 参加者13名「病状を悪化せず、自宅での生活を長く続けていく為の支援」訪問看護師にアドバイザー依頼。</p> <p>②5包括共催の事例検討会開催（医療介護連携）4/17 参加者44名（宍戸医師、高齢者福祉課、訪問看護、薬局、居宅介護支援事業所、通所事業所）</p> <p>検討内容：①相談に対してどのような情報が必要だと思うか？②その情報を得るにはどのような方法で確認をするか？③また、その情報をもとにどのような支援ができるか？</p>
臼井・千代田	<ul style="list-style-type: none"> ・4/17 圏域事業所連絡会を開催。（参加者22名） ・圏域のケアマネジャー事業所・訪問介護事業所・福祉用具事業所・訪問看護事業所・通所介護事業所と意見交換の場を設けた。医療介護合同検討会を開催し薬局も参加。（参加者44名） ・1/15 ケアマネジャー連絡会にて地区社協の支え合いサービス関係者と意見交換の場を設けた。（参加者26名）
佐倉	<ul style="list-style-type: none"> ・R6/6/18 佐倉南部合同勉強会をケアマネジャー向けに開催、その際のアンケートにて『医療との連携について』のニーズ記載あり。 ・R6/7/25 佐倉・南部地域在宅医療・介護連携会議「さきいか勉強会」を開催し、「受け入れ先のない利用者の対応について」をテーマにグループ毎に意見交換の場を設けている。 ・R6/11/15 佐倉・南部包括合同でデイサービス連絡会を開催。「介護報酬の改定、加算について」や「BCPIについて」の内容を中心に意見交換の場を設けている。
南部	<ul style="list-style-type: none"> ・R6/6/18 佐倉南部合同勉強会をケアマネジャー向けに開催、その際のアンケートにて『医療との連携について』のニーズ記載あり。 ・8/8 根郷地区民生・児童委員との勉強会を実施。介護保険制度、ケアマネジャーの役割に関する講話や事例を通して意見交換を行った。 ・7/25 佐倉・南部地域在宅医療・介護連携会議（さきいか）を開催。「受け入れ先のない利用者の対応について」をテーマに事例検討、意見交換を行った。 ・11/15 佐倉・南部包括合同でデイサービス連絡会を開催。「介護報酬の改定、加算について」「BCPIについて」参加11名 ・11/22 民生委員とケアマネジャーの意見交換会を開催。23名参加 ・R7.2/14 に実施した「南部エリア」の集いは圏域のCMに対しアンケート調査を行った（対応に苦慮している、困っているケース等）

13 No.59 センター主催の地域ケア会議において、多職種等と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか

【連携した職種や検討を行った具体例を記載】

志津北部	<ul style="list-style-type: none"> ・R6.5.20 自動車が無くなっても気軽に外出を行えるには。 ・R6.5.20 地域で交流しながら生活できるようにするために。 ・R6.7.22 腰痛などの痛みや食事制限のある中で、楽しみをもって生活を送りたい。 ・R6.7.22 介護保険を卒業したいという意向を叶えるために。 ・R6.9.24 交流の場に参加するためには、一人で外出できる能力はあるのに家に閉じこもりがちの方の支援。 ・R6.10.21 自立支援と現状維持をするための支援を考える。不安を抱えた方が、自分らしく一人で生活していくためには。 <p>※いずれも助言者に地域の管理栄養士、管理薬剤師、PT、SC参加</p>
志津南部	<p>「介護予防のための地域ケア個別会議」を開催。</p> <p>■検討事例数：6/11、7/11、9/19、10/24に開催 8事例実施</p> <p>■出席した主な関係者：薬剤師、理学療法士、作業療法士、訪問看護師、生活支援コーディネーター等に助言者として依頼。</p> <p>■内容：「地域のコミュニティへのイベント方法や課題を共有する」「ご本人の希望である他者との交流をする機会を増やすこと、旅行、相撲や競馬等に行くことを叶えるにはどうしたら良いか。」「健康を崩した時も早期に発見できる体制を構築し、体調回復時にはまた自立した生活ができる支援の方法について」「老々介護になっている利用者の支援の仕方」「閉じこもりを防止し外出ができるようになるには？」「楽しみを持ちながら生活ができるようになる支援を検討する」「通院を継続したい方の支援について」「独居生活を生きがいを持って生活していくには～趣味のお花を生かして地域と繋げていきたい～」</p>
臼井・千代田	<p>介護予防のための地域ケア個別会議を開催。</p> <p>■5/15、6/16、10/16、11/20（計8事例）</p> <p>■出席した主な参加者：管理薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護事業所、ケアマネジャー、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p> <p>■内容：・住み慣れた家に住み続けるために移動に繋がる資源はないか。・いきいきと生活するためにどのような支援をすると良いか。・自分らしく生きがいを持って生活していくにどのような支援をすると良いか。・自分らしく生きがいを持って生活していくには、本人が外出しやすくなる方法は？・病状が悪化して外出できなくなったときに不便なく地域で生活するには。・坂が多く移動が困難な状況の中で地域との関わりを持ちながら一人暮らしを続けるには、地域交流、趣味活動参加の参加のための外出手段について。・今の生活を続けるためにどのような支援が必要か。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

佐倉	<p>介護予防のための地域ケア個別会議開催。</p> <p>■検討事例件数:5/22、7/10、9/18、11/13(計8事例)</p> <p>■出席した主な関係者: PT、薬剤師、ケアマネジャー、民生委員、デイ相談員、訪問リハ、訪問看護、生活支援コーディネーター</p> <p>■内容: ・今後のリスクを考え準備ができる事はないか考える。 ・本人が望んでいる「外に出ていく」をどのように支えていくか。 ・病気悪化も踏まえ、ご本人のやりたい活動を続けるための支援。 ・本人の望む生活を支える為に、地域の人たちと一緒に考える。 ・ご本人が楽しみを持ち在宅生活を続けられるようにする為に。 ・孤独や不安を抱えた独居高齢者を支えるにはどうしたら良いか。 ・人が家に来ることやデイに行くと人と交流する事は嫌いな方、人と関わりたくない方へのアプローチの仕方や、よりご本人らしい生活のためにどのように支援したらよいか。 ・物であふれている家の状態や服薬忘れを改善する方法、また、ご本人の意欲や興味を活動・社会参加につなげる方法について。</p>
南部	<p>介護予防のための地域ケア個別会議 8事例。</p> <p>■出席した主な関係者: 理学療法士、作業療法士、看護師、管理栄養士、介護支援事業所、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p> <p>■内容: 5/20 ①②高齢化に伴い地域での活動量が低下している方の自立支援について 7/17 ①高齢化に伴いこれまでできていた地域の活動に参加ができなくなっているケース②病識の薄い方へのアプローチについて 9/18 ①知的障害のある方が高齢になっても地域で生活するための視点②疾患による影響があっても住み慣れた地域で生活できるための視点 11/20 ①本人らしい生活を継続していくための支援方法を考える ②高齢になり生活に支障が生じてその人らしく地域で生活できる視点について学ぶ</p>

14 No.65 センター主催の地域ケア会議(地域ケア推進会議)において把握した地域課題や対応等を、市町村に報告しているか

【抽出した地域課題や対応等について記載】

志津北部	<p>①ユーカリが丘2丁目の高齢化率は52%。認知症で独居の住人が詐欺や悪徳商法の電話にあっている→民生委員や地域住民同士の見守り、集いの場で情報交換していくことが必要。防災無線の活用も ②上座第6.7町会は、近隣のお互いさまや家族の支援が出来ている、最近では認知症や周辺症状が表面化している→包括支援センターや認知症声掛け訓練など住民への周知が必要</p>
志津南部	<p>月次報告提出時に作成した議事録を添付し報告している。</p> <p>介護予防のための地域ケア個別会議により、地域課題を抽出し、地域ケア圏域推進会議を開催。</p> <p>■8/23下志津地区・地域課題地域性もあり、地域の高齢者が集える場が少ない。移動手段、居場所づくり、担い手について検討した。 ・参加者:民生委員、区長、区の相談役、地区社協副会長、事務局、福祉委員、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p> <p>■11/15中志津地区・個々の能力を活かせる場とのマッチングや創設について検討。 ・参加者:地区社協会長、地域福祉センター長、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p> <p>月次報告提出時に作成した議事録を添付し報告している。</p> <p>介護予防のための地域ケア個別会議により、地域課題を抽出し、地域ケア圏域推進会議を開催。</p> <p>■8/23下志津地区・地域課題地域性もあり、地域の高齢者が集える場が少ない。移動手段、居場所づくり、担い手について検討した。 ・参加者:民生委員、区長、区の相談役、地区社協副会長、事務局、福祉委員、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p> <p>■11/15中志津地区・個々の能力を活かせる場とのマッチングや創設について検討。 ・参加者:地区社協会長、地域福祉センター長、主任ケアマネジャー、生活支援コーディネーター</p>
臼井・千代田	<p>前半:うすい東地区、後半:千代田地区を対象に実施。</p> <p>うすい東地区では坂道が多い土地柄、移動手段に困る方が多い。高齢化で免許を返納した後の移動方法や、病院や店舗が少ないことから、外出の機会も減少していることが分かった。そのため、主に『移動手段』を課題として開催した。移動販売の拡充、公共交通機関やタクシーを低額で利用できる仕組みづくりを提言した。</p> <p>千代田地区では自助・共助が成立している古村地区のため、介護サービスなどの公的サービスが入りづらい土地柄。複合的な課題があっても顕在化しにくいため、対象者が住み慣れた地域で生活を続けられるために、圏域に存在する『他職種の連携』をテーマに開催した。民生委員、各専門機関の役割の理解と強みを共有でき、自助・共助以外の公的サービスの周知を図れるように連携を深めることができた。</p>
佐倉	<p>月次報告書を市への提出時に合わせて報告を行っている。</p> <p>R6/7/10の地域ケア会議でも挙がっている地域課題「独居の方の体調不良時の受診」など兼ねてから課題にあった「受診支援」をテーマにして『地域ケア圏域推進会議』を今年度は2回開催している。</p> <p>■開催日:R6/8/21、R7/1/15</p> <p>■千成地区の方を中心に「通院・受診支援について必要な資源について」意見交換を行い、地域の課題を整理・把握し市へ報告を行っている。地域の共通課題として『自力で受診出来る仕組みが必要』『院内ケアに対して支援が必要』についての意見を市にも提言している。また佐倉・南部地域在宅医療・介護連携会議の場でも多職種・多分野間で「移動支援について」の話合いの場の必要性についても周知している。</p> <p>■参加者:管理薬剤師、MSW、PT、民生委員、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーター/地域共生推進班 地区担当、佐倉市シルバー人材センター、生活支援コーディネーター</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

南部	<p>地域ケア個別会議より地域課題を抽出し、8月は坂戸地区、12月は八木地区を取り上げて地域の現状と地域課題について検討を行う。特に「地域と再び繋がっていくために地域として何ができるか、地域にあったらいい資源等」について検討を行った。</p> <p>■主な参加者 民生委員、地区社会福祉協議会、地域福祉CO、ささえあいサービス、地域食堂、地域住民、主任介護支援専門員、デイサービス相談員、生活支援コーディネーター</p> <p>8月坂戸地区</p> <p>【①地域課題】移動手段がなく、外出の機会が減少していることに伴い、地域との繋がりも減っている。地域に集まれる場所があっても、そこまで行く移動手段がない。地域内では移動支援のニーズがあるけれど、対応ができていない。体制づくりをしたいが、地域内だけでは進めることが難しい。地域内に支え合いサービスはあるが、生活援助は家族が対応しているケースが多いので利用は少ない。</p> <p>【②事例】身の回りのことはある程度自身で行えており、生活支援は家族が対応しているが、屋外の歩行は困難な為近所づきあいや地域との交流の機会がほとんどない。</p> <p>【③提言内容】地域食堂や体操会などに住民同士で乗り合いができないか。移動支援については、地区社協だけでは体制づくりができず長年の課題であるため、各関係機関と調整し話し合いを重ねて課題解決をしていく必要がある。</p> <p>12月八木地区</p> <p>【①地域課題】移動手段がないため地域行事に参加することができず、地域とのつながりも減少している。昔は子育てをきっかけに横の繋がりがあったが、現在は他地区の学校に通っている世帯も多いため子ども同士の繋がりがなくなっており、若い世代の横の繋がりもあまりない。</p> <p>【②事例】同居の息子は日中働いている為、身の回りのことは隣の市に住む娘が毎日訪問して支援している。以前は近所とも関わりがあったが、加齢により足腰が悪くなってきたため現在は交流がほぼ無くなってしまった。ご本人は趣味である家庭菜園を続けたり、人との関わりを続けたいという希望がある。</p> <p>【③提言内容】地域の支え合いサービスより、家庭菜園の手伝いをできないかと提案があった。また、同年9月に開始した地域食堂についても、地域の新たな交流の場になっているが、移動手段がなく食堂まで来ることができない方もいる。移動支援については、福祉施設の車両を活用した送迎について検討を行っていく。</p>
----	--

15 No.68 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけているか

【社会資源の例、内容について記載】

志津北部	<p>通いの場(体操会、オレンジカフェ等)、配食サービス、移動販売車、社協等の日常生活支援、シルバーセンター等の移動支援、民生委員の見守りなど。</p>
志津南部	<p>地域住民、民生委員の見守りや緊急通報、配食サービスなど市の資源、地域の支え合いサービスや民間有償サービス、ボランティア団体、シルバー人材サービスについては生活支援コーディネーターと連携、福祉用具自費サービス、認知症カフェなどを位置付けている。</p>
臼井・千代田	<p>民生委員の見守りや市の緊急通報サービス・配食サービス 地域の支え合いサービス(にこにこサービス・王援隊・愛の手サポート・そめいの21)・・・ゴミ出し・買い物代行・受診のために診察券を出し・家の片付け(大掃除をの除く)・庭の草取り・通院同行など シルバー人材サービス・・・使っていない部屋の掃除・移送サービス・庭木の剪定など 移動スーパー(ウエルシア・ヤックス・カスミ・とくし丸)、民間配食サービス、福祉用具自費サービス</p>
佐倉	<p>・市や民間の配食サービス、市の緊急通報装置 ・買い物バス(生活クラブ風の村さくら買物バス・千成ふれあいサービス買物バス・佐倉城の辺地区社会福祉協議会買物バス) ・移動スーパー(ウエルシア・ヤックス・とくし丸・カスミ) ・地域のサロン(わくわく体操会、認知症予防のための運動教室等)、民生委員の見守り、地域の支え合いサービス、社協の日常生活自立支援、シルバー人材センター、福祉用具自費サービス等</p>
南部	<p>地区社協が行う支えあいサービスや社協・シルバー人材センターが行っている移送サービス、配食サービス、移動スーパー等多様な地域資源を活用するようにし、ケアプランにも記載している。生活支援のニーズが挙がった際には、生活支援コーディネーターより地域資源の情報提供も行っている。また月次報告で地域資源の活用件数を各職員から提出してもらい、全体で地域資源の共有を図っている。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

16 No.74 認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員またはチームオレンジコーディネーターと、支援対象者に関する情報共有を図っているか

【認知症地域支援推進員やチームオレンジの活動内容について記載】

志津北部	オレンジカフェ、介護者教室、認知症サポーター養成講座、ポッチャ大会開催。認知症月間に合わせて、市内の施設でポスターの掲示し、認知症への理解促進に取り組んでいる。
志津南部	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、東邦大学医療センター佐倉病院にて認知症初期集中チーム員会議を開催し、精神科医・認知症専門看護師・臨床心理士と共に事例検討を行い、専門医療機関に繋がっていない対応困難なケースについて意見交換や助言をいただき、情報共有を行っている。 活動を開始した「チームオレンジ四季」と、志津駅北口の花壇整備、ロバ隊長マスコット作り、オレンジカフェ、声掛け訓練等の運営に参加している。また、2ヶ月に1回、チームオレンジ四季との交流会に参加している。
臼井・千代田	<ul style="list-style-type: none"> 6/15 うすい地区の自治会連合会にて地域包括ケアシステム及び認知症に関する啓発のための講話を実施。 6/29 うすい地区の福祉委員向けに包括の役割及び認知症に関する啓発のための講話を実施。 9/30 王子台の支え合いサービスのサポーター対象に認知症の啓発講座を開催。 10/6 臼井地区のボーイスカウトを対象に認知症サポーター養成講座を実施。 11/5 臼井西中の福祉教育の一環として、1年生を対象に事前学習を含む認知症サポーター養成講座を実施。チームオレンジに寸劇・助言を依頼。 2/16 佐倉市の補助金事業を利用した認知症啓発イベントをウエルシア薬局が主体となり実施。チームオレンジがブースに立ち、オレンジカフェなどの周知を行った。 2/27 千代田地区社協による福祉教育の一環として臼井南中の3年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施。チームオレンジにグループワークのファシリテーターとして参加を依頼。
佐倉	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座・声掛け訓練（小学校向け）をR6/10/24に市・包括・内郷小学校PTA・チームオレンジの方々と連携して開催。チームオレンジの方々には役者になってもらい、寸劇を通じて認知症について、子供達向けに分かりやすく伝える活動も行っている。 チームオレンジの方々と一緒にオレンジカフェを年10回開催しており、終了後には支援状況などについて情報交換会を行っている。 その他、合同オレンジカフェや介護者教室の開催時は、お手伝いもしてくださっている。
南部	<ul style="list-style-type: none"> 4/2に法人の新任および異動職員を対象に認知症サポーター養成講座を実施した。 6/26に高齢者福祉課・チームオレンジと連携し、山王小学校4、5年生対象に認知症サポーター養成講座を実施した。 1/19に表町町内会の役員11名を対象に声掛け訓練を開催。午前中に認知症サポーター養成講座・午後に声掛け訓練という形で実施した。 3/30 シルバー人材センター協力員43名対象に、認知症の方の関わり方と認知症予防をテーマに出前講座開催した。 <p>■認知症カフェ…定期的に参加している方も含めて毎月15～20名程度の方が参加。当事者の意見を反映したものになるよう出演者の方と内容を検討。歌詞カードを用意して一緒に歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたり、当事者がリクエストした曲を目の前で演奏してもらおうなど様々な内容を企画した。全体90分間のうち、前30分で出演者による内容、中30分で飲み物とお茶菓子を提供しての歓談、後30分で音楽体操などをおこなっている。歓談の時間を取ることにより当事者・家族関係なく参加者同士での交流も以前より増えた。</p> <p>■介護者教室…参加者からのリクエストや総合相談での相談内容の傾向、今まで開催した内容の反響を考慮して内容を検討している。令和6年度は5月「施設の探し方について」、6月「消費者被害」、9月「認知症について」12月「福祉用具の活用」をテーマに開催した。</p>

令和7年度 佐倉市地域包括支援センター 事業評価結果（記述）

17 No.76 生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターや協議体と協働して地域活動を促進しているか

【地域活動を促進した事例等について記載】

志津北部	<p>■センター職員と生活支援コーディネーターと協働して依頼を受けた民生委員主催の上座遠山会館憩いの場、ユーカリが丘地区社会福祉協議会主催のいきいきサロン等で出前講座を開催している。顔の見える関係となり、地域の通いの場に参加したい方をご紹介しやすくなった。</p> <p>■イオン薬局から依頼を受け、イオン周年祭ではセンター職員と協働して健康相談窓口を設け、包括の周知や地域の通いの場のご紹介をした。来場者で、プラザおもしろ体操の会をご紹介した方は、後日生活支援コーディネーターが日程調整を行い、見学同行した。</p>
志津南部	<p>・生活支援コーディネーターとは常に連携し、介護予防のための地域ケア個別会議、地域ケア圏域推進会議に助言者として参加し、地域の情報や社会資源等を共有している。介護予防担当者と連携し、地域の通い場へ訪問し課題把握に努めている。認知症地域支援推進員と連携し、地区社協・自治会・有償サービス定例会議に出席し、連携しながら地域課題の把握に努め協議を行っている。また、新たな取り組みとしては、特にニーズの高い「移動支援」について、中志津地域での立ち上げに向けて、新たな担い手や賛同者の確保を目的として、圏域内の団体の懇話会にて意見交換をしながら進めている。</p>
臼井・千代田	<p>■生活支援コーディネーターが地域の通いの場などを定期的に訪問し、活動状況などを包括内で共有・連携し、活動の継続支援や立ち上げ支援を行っている。</p> <p>・体操会の代表者より「参加者の欠席が多く、補助金の対象外となってしまった」との相談を受け、介護予防担当者と相談。同じ会場でとしらん塾（介護予防教室）を開催し、活動紹介の時間を設けた結果、現在は参加者が増加している。</p> <p>・NPO法人ココプロの代表者より「通所介護事業所を立ち上げたい」との相談を受け、圏域内の通所介護事業所や地域の高齢化率などを情報提供。通所介護事業所の開所後は、圏域の通所系サービス事業所連絡会にも出席していただき、事業所同士の連携を図っている。</p> <p>■近年、民間企業から市へ移動販売の相談が入ることが多いため、総合相談や居宅ケアマネジャーからの相談、協議体、地域ケア圏域推進会議など、日頃から買い物・移動に関するニーズを包括内で収集し、市と共有している。</p> <p>・市へ移動スーパー担当者より販売場所の相談が入り、包括内で検討。買い物・移動に関する相談があった地域へ相談し、地域住民、自治会・民生委員、介護施設のご協力により、圏域内5か所で運行開始となった。民生委員の希望により、自治会の回覧・掲示板用のチラシを民生委員と協働して作成。また、佐倉市内全体の運行表、圏域の移動販売マップを作成し、地域住民と居宅ケアマネジャーへ情報提供を行っている。</p>
佐倉	<p>■生活支援コーディネーターと佐倉東部地区社会福祉協議会が連携し、R7/2/15に地域住民交流を目的とした健康相談コーナー『茶話やか祭り』を、健栄鎚木薬局、佐倉中央病院、佐倉ホワイエ、株式会社千葉薬品、佐倉地域包括支援センターが協働してミレニアムセンターにて開催。参加者向けには、かんたん健康測定と、理学療法士と薬剤師による相談会を行っている。</p> <p>■生活支援コーディネーターと佐倉東部地区社会福祉協議会が連携し、R7/3/25に地域住民交流を目的とした『佐倉東部地区社協の茶話やかサロン（弥勒町）』を健栄鎚木薬局、千葉薬品、佐倉ホワイエ、佐倉中央病院、佐倉地域包括支援センターが協働して弥勒町会館にて開催。参加者向けに測定会や健康相談コーナーを設けている。</p>
南部	<p>1月に「南部圏域地区社協と社会福祉施設との移動支援に関する懇談会」として、南部圏域の3地区社協と3施設間で「買い物支援」から発展させた「移動支援」について協議を行った。</p> <p>参加者は、市社協、福祉施設3施設（はちす苑、弥富あさくら、ときわの杜）施設長、3地区社協（根郷・和田・弥富）、包括SC。</p> <p>内容としては、現在は買い物支援を目的として福祉施設の車両を使用して地区社協支え合いサービスにて支援を行っているが、特に和田・弥富地区からは買い物支援よりも通院や地域食堂への移動支援を検討したいとの話が挙がったため、今後の移動支援について関係者で意見交換を行った。</p> <p>根郷地区は現状の支援で手一杯のため通院支援までは対応が難しいため、現状の買い物支援をベースに対応したいとの意向。弥富・和田地区については買い物支援の依頼は現状ないため、今後ニーズ調査をした上で通院や地域食堂への送迎支援を検討したいとの意向。施設側の意見としては、車両貸し出し可能な時間内であれば目的は問わない事。今後は意見交換の内容を踏まえ、幅広く車両を活用できるようガイドラインの内容の見直しを行い、次年度改めて話し合いの場を設ける予定。</p>